

# 企

業とは、そのときの社会の要請に対応する限りに存在することができません。社会の要請に応えられない企業は、退場を宣告されます。そして、社会の要請は時代の変化に合わせて変わっていきます——企業での講演を依頼されたとき、よく述べる言葉です。その時代の社会の要請に応えること（レスポンス）ができる企業の力を、CSR（コーポレート・ソーシャル・レスポンスビリティ）と言います。

これって、企業だけじゃなくて、都市も同じだね、と思いませんか？

その時代の社会の要請に応えようとする都市に

は、多くの人やプロジェクトが集まってきて、ますます魅力的になり繁栄します。しかし、そうではない都市は人も減って衰退していくことでしょう。と考えたときに、わが東京は？ そして、この時代の都市への要請とは何か？ と思うのです。

私が大事にしているキーワードが三つあります。一つめは「持続可能性」。日本でも各地で「史上最高温」が毎年のように報告され、以前には考えられなかったような豪雨が災害を引き起こしているように、温暖化の影響が顕著になりつつあります。一つひとつの現象が温暖化のせいと科学的に断言することはできませんが、温暖化が進行すると予測され

ていた現象が増えているのは事実です。人類の持続可能性に向けて、温暖化や生物多様性の喪失、水・食料問題などの環境問題を解決すべく、他の都市や国をも引っ張っていくことは、東京に期待されている大きな役割の一つです。

私が委員を務めている、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の「街づくり・持続可能性委員会」の低炭素ワーキンググループでも、東京オリンピック・パラリンピックを、そしてそれを通して東京自体を、どのように低炭素化していくかを議論しているところです。

二つめのキーワードは「レジリエンス」。外からの衝撃（地震、温暖化、エネルギー途絶、エネルギー価格上昇、次なる金融危機など）にもしなやかに立ち直れる力のことです。東京は特に、今後は地方よりも高齢者が急増していく時代を迎えますから、そういった時代をにらんで、今からさまざまな備えをしておく必要があります。

三つめのキーワードは「多様性」です。世界の多くのの人にとって東京のイメージは「二十四時間がんばる企業人社会」のイメージではないでしょうか。そういう一面も大事にしながら、さまざまな立場や考え、志向性、得意技を持った老若男女が、それぞれ自分らしく生きつつ、みんなの多様性を力に変えていける、そんな都市になつてほしいなと思います。

そんなことを考えているとワクワクしてきますね！ 都市は「再開発」というより、「新開発」——時代に合わせてつねに「作り直し」されていくものなのではないか。

# 次なる東京を開発するためのキーワード。

## 東京点画

東京都大学環境学部教授

## 枝廣淳子

text by Junko Echihoro

えだひろ じゅんこ 「不都合な真実」(アル・ゴア著)の翻訳をはじめ、

環境問題に関する講演、執筆、企業のCSRコンサルティングや異業種勉強会などの活動を通じて、地球環境の現状や国内外の動き、新しい経済や社会のあり方、幸福度、レジリエンス(しなやかな強さ)を高めるための考え方や事例を研究。

「伝えること」で変化を創り、「つながり」と「対話」で、しなやかに強く、幸せな未来の共創をめざす。

